

平成26年 9月

高杉昌平 学位論文審査要旨

主 査 村 脇 義 和
副主査 池 口 正 英
同 小 川 敏 英

主論文

Coil embolization with side-holed catheter to preserve peripheral flow for visceral artery pseudoaneurysm: an experimental study in swine

(腹部仮性動脈瘤に対する血流温存を目的とした側孔付きカテーテル併用コイル塞栓術：
ブタを用いた実験研究)

(著者：高杉昌平、神納敏夫、大内泰文、矢田晋作、足立憲、河合剛、遠藤雅之、
小川敏英)

平成26年 Journal of Vascular and Interventional Radiology 掲載予定

参考論文

1. Development of a new hanging-type esophageal stent for preventing migration: a preliminary study in an animal model of esophagotracheal fistula

(逸脱防止機構付き吊り下げ型食道ステントの開発:食道気管瘻動物モデルを用いた基礎実験)

(著者：遠藤雅之、神納敏夫、大内泰文、杉浦公彦、矢田晋作、足立憲、河合剛、
高杉昌平、山本修一、松本顕佑、橋本政幸、井隼孝司、小川敏英)

平成24年 Cardiovascular and Interventional Radiology 35巻 1188頁～1194頁

審査結果の要旨

本研究は、豚の急性腹部動脈性出血モデルを用いて、側孔付きカテーテル併用コイル塞栓術の止血効果、末梢動脈血流の維持能を急性期並びに7日後に検討したものである。その結果、本法によれば7日後まで概ね良好な止血効果と、末梢動脈血流の維持が得られることが判明した。本論文の内容は、仮性動脈瘤を含む急性動脈性出血に対して、側孔付きカテーテル併用コイル塞栓術は末端臓器の虚血性障害のリスクを軽減し、ステントグラフト留置など末梢血流維持が可能な止血法の施行困難例に対する代替療法としての有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。